

地下街就労者の生活調査
— 地下都市計画の基礎調査 (その4) —

正会員 ○三浦 秀一^{*1} 準会員 藤井 真^{*2} 正会員 藤田能理子^{*3}
同 須藤 哲夫^{*4} 同 高橋 信之^{*5} 同 尾島 俊雄^{*6}

はじめに

今後、ますます増えていくであろう地下街の計画に際して、そこで活動する人間の行動を把握することが必要になってくる。特に、高度地下利用を考える上では地下で長時間生活する地下街就労者の生活実態を知ることが重要になる。そして、高度地下利用に対して人間がどのように適応していけるのかを考えなければならない。

調査の概要

アンケート調査は前報(その2)と同じ2地下街において店舗を巡回して就労者を対象に、地下街の環境、就労者の健康状態、属性に関する事項を調査したものである。また、この2地下街は東京の代表的な地下街であり、規模も大きいので、地下街の一般的な傾向を示すものと考えられる。アンケートの配布状況を表1.に示すが、本報では健康状態、属性、就労状況について報告する。

属性と就労状況

現在の地下街は性格的に商業施設に近いものであるが、その就労者の属性は図1.のようになっている。男女別では、男の方がやや多い。年齢別では、20代が最も多く、次に30代が多い。職業別では、物販関係者が最も多い。

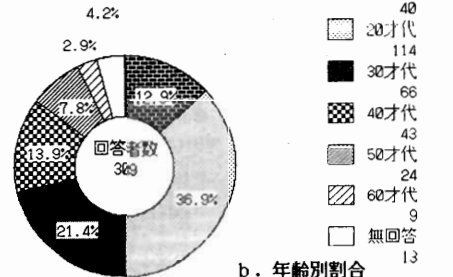
勤続期間は図2.に示すように1年未満、数年が圧倒的に多く、5年以上は少ない。1週間の勤務日数は図3.に示すように、6日が最も多い。「休み時間の過ごし方」に関しては図5.に示すように「地下にある飲食店、物販店で過ごす」が最も多く、「地上にある仕事場以外の飲食店、物販店で過ごす」や、「地上

表1. アンケート概要

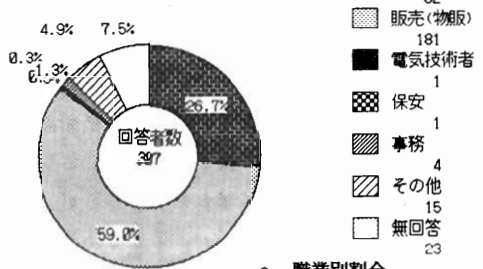
配布数	461
回収数	309
回収率	67.0%



a. 男女別割合



b. 年齢別割合



c. 職業別割合

図1. 地下街就労者の属性

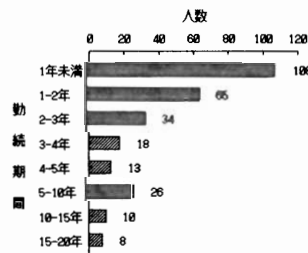


図2. 地下街就労者の勤続期間

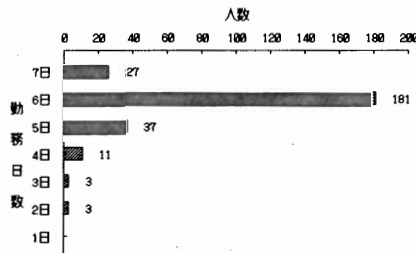


図3. 地下街就労者の週間勤務日数

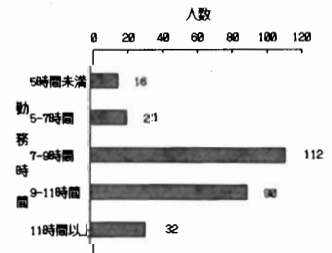


図4. 地下街就労者の日勤務時間

にある飲食店、物販店で過ごす」のように地上に出るのは13%程度に過ぎない。また、女性の方が仕事場で過ごし、男性の方が仕事場以外で過ごす傾向も見られた。休日の過ごし方を示したのが図7.である。

健康状態

健康状態に対する質問の結果が図7.であるが、1位の「目が疲れる」と、3位の「

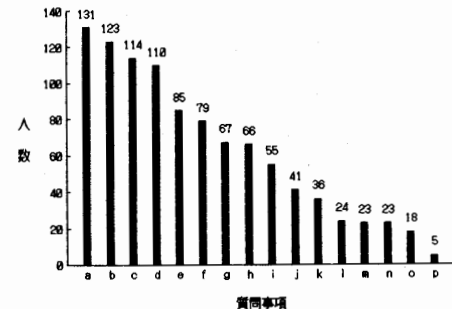


図7. 健康状態

かぜをよくひく」と、4位の「時間の感覚がない」の3つが注目される。2位の「肩がこる、腰が痛い」の回答は、物販・飲食に共通する立ち仕事の影響と考えられる。「目が疲れる」に関しては、地下街が完全な人工照明空間のため、照度は窓のある部屋に比べると、非常に低くなる可能性があり、昼間を地下で過ごす人にとっては、自然光のもとで過ごす時間が極めて少なくなる。また、照明のほとんどが蛍光灯であり、光のちらつきがある。この様な地下街の設備構造そのものに起因する要素が考えられる。「かぜをよくひく」に関しては、ヒヤリングにおいてもよく聞かれた回答であり、かぜ等呼吸器系の疾病は、職場を地上から地下に移した人の多くが、以前よりふえたと答えている。「時間の感覚がない」に関しては閉鎖空間である地下街特有の症状である。また、「今の労働状態が続いても、体に自信があるか」と言う質問に対する回答結果が図8.であるが、「自信がある」という側に答えた方が多い。

就業状況と健康状態

「勤務時間」と「体に対する自信」をクロス集計したものが表2.であるが、勤務時間が増すに従って「体に対する自信がない」と回答した人の割合がふえ、「自信がある」と回答した人の割合が減っている。また、「勤続期間」と「体に対する自信」をクロス集計したものが表3.であるが、勤続期間が増すに従って「自信がない」と回答した人の割合が減り、「自信がある」と回答した人の割合がふえている。15年を越えると「自信がない」の回答がほとんどになるが、これは年齢の影響が大きいと考えられる。

従って、地下街で生活するのにあたり、長時間働くことは健康的ではないが、歳月がたつにつれ地下街での生活にも慣れていくものと考えられる。

※謝辞・本論文を作成するにあたり、多大な協力を頂いた政策科学研究所、地下街の皆様に、謝意を表します。

*1早大大学院 *2早大理工学部 *3CORE建築設計事務所 *4建設省 *5早大工博 *6早大教授 工博

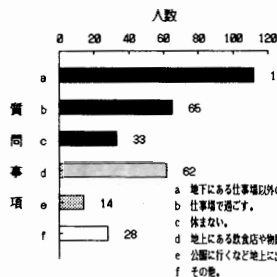


図5. 休みの時間の過ごし方

- a 目が疲れる。
- b 肩がこる、腰が痛い。
- c かぜをよくひく。
- d 時間の感覚がない。
- e 皮膚が荒れる。
- f 胃腸が弱い。
- g 手足がいたい、だるい。
- h いらいらする。
- i 頭が痛い、重い。
- j 目まい、立ちくらみがする。
- k 光がまぶしい。
- l 方向感覚がにくい。
- m 食欲がない。
- n 物事に集中できない。
- o 耳なりがする。
- p その他。

回答はあくまで本人の診断であり、それに対する医学的な調査は行っていない。

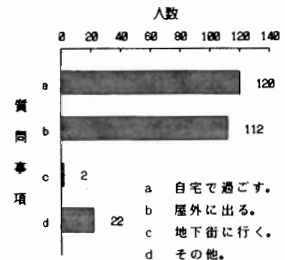


図6. 休日の過ごし方

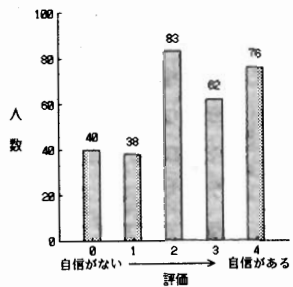


図8. 体に対する自信

表2. 勤務時間と体に対する自信 [人数]

評価	自信がない → 自信がある			
	0 & 1	2	3 & 4	
勤務時間				
7時間未満	5 (16%)	11 (34%)	16 (50%)	
7-9時間	22 (22%)	30 (29%)	50 (49%)	
9時間以上	36 (38%)	26 (22%)	38 (40%)	

表3. 勤務期間と体に対する自信 [人数]

評価	自信がない → 自信がある			
	0 & 1	2	3 & 4	
勤務期間				
1年未満	27 (26%)	35 (34%)	42 (40%)	
1-5年	30 (24%)	34 (27%)	62 (49%)	
5-10年	6 (23%)	6 (24%)	14 (53%)	
10-15年	1 (10%)	3 (30%)	6 (60%)	
15年以上	4 (80%)	1 (20%)	0 (0%)	